

種まきの譬え

ルカによる福音書8:1-15
2011、11、13 HKJCF

I 概観

序)①イエス様のキリストとしての権威

②愛と赦しの福音③み言を聞く姿勢

1、イエス様の伝道旅行 1-3

2、種まきの譬え 4-8

3、譬えの解説 9-15

V適用:み言を聴き、実を結ぶために、何が心から取り除かれるべきですか？

II イエス様の伝道旅行

1、ガリラヤでの伝道(①神の国②福音)

2、イエス様の弟子たち

①12弟子たち

②女の弟子たちへの配慮

3、ルカの旅行記

①ルカの福音書(ガリラヤ⇒エルサレム)

②使徒の働き(エルサレム⇒ローマ)

III 種まきの譬え

1、譬えとは？

2、種をまく人: イエス様ご自身と弟子たち

3、まかれた種: み言

4、4種類の土地: 人間の聴く姿勢と成長

5、多くの収穫: 福音の愛の力の解放

IV 譬えの解説(1)

1、弟子の質問: 悟りのなさと同近の特権

2、譬えの目的: やがて人々が悟るように

3、道ばた: 働き中心・他者からの賞賛・行動で多忙、自らを省みることなし→サタンは人生の目的をずらし、浅く、固い無関心へ

V 譬えの解説(2)

4、岩の上: 情報・感情レベル、中心的価値観は取り扱われないまま、困難で中断

5、いばらの中: 心の深層の願望・傷・固執の掘り下げなし→サタンは否認を用いる

6、良い地: 合目的・深耕・保持・忍耐・多実⇒み言を深く聴く時、自己を発見し、人のこころを深く理解・共感することが可能
実を結ぶ人生: 弟子のゴール